

新春恒例 第六回 年男年女撮影会



ベイタウンのみなさん、新年明けましておめでとうございます。恒例の年男年女の記念写真で新年最初のベイタウンニュースをスタートいたします。ベイタウンニュースでは1999年新年号(第20号)から、当時はまだ草原だったコア建設用地を背景にその年の年男年女の記念写真を撮りつけ、定点撮影でベイタウンの変化をお伝えしてきました。そして今年はいよいよ完成したベイタウンコアのアトリウムでの撮影をお届けします。

参加してくださった末年さんは12人。「今年はコアや郵便局ができて便利になりました。来年は妻が申年なので参加するつもりです。なにしろ12年に1度の機会ですから」(セントラルパークイーストの高橋信義さん)、「馬齢を重ねて6回目の年男を迎えてしまったという感じです。これからも前向きに生きていきたいと思っていますが、今年出られなかった水泳のマスターズに参加したいですね」(6番街山木洋三さん)

誘い合って参加したという幼なじみのお二人は「今年は引っ越しがあって大変だったけれど、だいぶ慣れてしまし

た。ベイタウンは活気があって若い人が多いなあと思います。来年はお友だちを増やしたい」(20番街池田美記子さん)、「子育てと幼稚園の行事であっという間に1年が過ぎてしまいました。子どもたちの成長はめざましかったですね。来年はもう少し自分の時間をもちたい!」(18番街大和雅子さん)

新しい年への期待を込めてベイタウンニュースもまた、皆さんのお役にたつ情報をお知らせしていきますので応援をお願いいたします。



平成11年 ベイタウンの年男・年女

ベイタウンニュース発行以来、2回目の正月を迎えました。今回の正月号特別企画は、先月号(第19号)でお知らせしたように、「年男・年女全員集合」の記念写真です。果たして何人集まるか、ひとつとして誰も来なくて、編集局唯一の年男である金澤集員のアップの写真になってしまったのではないかと不安を抱きながら撮影会を迎えましたが、当日は晴天にも恵まれ、22人のうきぎの年男・年女が集まってくれました。参加頂いた皆さん、ありがとうございました。
この企画は、毎年恒化するベイタウンの発展を定点撮影で写真に残し、同時にその年の年男・年女の方に新年第1号の紙面に登場していただくという趣向で登場したものです。編集局では久々のクリーンヒットと自画自賛する企画です。写真の背景には今後最も変化が予想され、同時にベイタウン住民の期待の集まる場所として、コミュニティ・コア建設予定地を選びました。
来年、再来年と前を走る年に参加者が増え、同時に背景の空地にもコミュニティ・コアが少しずつ姿を現し、変化するベイタウンの家を写真で楽しめ、これが多岐企画となり、ベイタウンニュースも更に住民に親しまれる新聞として発展すれば良いな、と期待しています。何はともあれ、本年もよろしくお願いいたします。

1999年のベイタウンニュース新年号を飾った第1回撮影会。12・13番街の交差点付近からコア建設予定地をバックに撮影したもの。後ろに見えるのは8、10番街。シータワーはまだできていない。

「交通問題を考える(1)」

去る12月8日(日)、ベイタウンコア講習室にてベイタウンフォーラムが開催された。今回のテーマは「交通問題」。この街で、人と車が共存していく以上避けては通れないこの問題を、主催者・参加者合わせて50名を越す住民が、熱く、真剣に議論した。【板東】

主催者である街づくり研究会の事務局長、村岡英裕さん(グランパティオス公園東の街)の挨拶でフォーラムは始まった。交通問題は難しい問題であり、長丁場になるかも知れないが、皆で議論して解決していきたいとのことである。続いて、ベイタウンの地図に、参加者全員で「自分が歩行者または自転車に乗っていて危険と感じたことのある所に赤丸のシールを、逆に自動車の運転者として、路上駐車しがちな所に青丸のシールを貼る」作業を行った。皆、ふだんのことを思い出しながらシールを貼ったところ、写真掲載のような地図ができあがった。これを見ると、皆が普段危険と感じているのは、富士見通り、1番街・セントラルパーク・打瀬小学校のT字路、グランパティオスと打瀬二丁目公園の間のバス路線などであり、つい路上駐車しがちなのはプロムナードのようだ。青空駐車が車庫法違反であるだけでなく、バス停の前後や交差点付近は駐車禁止なのに、ベイタウン内では路上駐車が蔓延していること、それが消防車などの救急活動に支障をきたす可能性があること、また最近は富士見通りで事故が多発していること(9、10月だけで5件)などが指摘された。

このようにして、参加者全員が問題認識を持てたところで、ベイタウン自治会連合会交通委員会の福室さんが登場した。ベイタウン自治会連合会交通委員会は、自治会連合会が発足以来活動を続けており、主に年2回の路上駐車実態調査(3日ほどかけて、ベイタウン内の路上駐車車両を全件チェックし、ナンバー等を記録する)を中心に、周辺企業従業員の昼間路上駐車の実態調査および企業への啓蒙活動、企業庁や千葉西警察署との協議などを行ってきた。交通委員会の調査では、夜間ベイタウンの路上には平均200台程度の駐車車両があり、このうち60台は常時駐車している車両とのことだ。交通委員会としては、①緊急車両の活動の障害②バス運行上の障害③一般車両通行上の障害(すれ違いできない、等)④当然支払われるべき各街区駐車場料金未納による道義的問題などの面から、これらの路上駐車車両をなんとか減らしたいと考えてはいるが、何ら強制権を持たな

いため、調査止まりで具体的な対策が打てないというジレンマを抱えている。このような事実認識を元に、参加者による活発な意見交換が始まった。ここでは、

- 路上駐車対策にはメリハリが必要。駐車して良い所と悪い所を区別すべき。
- 警察は何故「違反」を野放ししているのか？(これに対しては、「非常に手間がかかる」「駐車禁止の表示がないと取締りにくい」「特定の車だけに対応すると苦情が生じる」等の理由で警察側も二の足を踏んでいる模様)



▲できあがったベイタウン危険箇所マップ

- 路上駐車蔓延を前提にして対策を講じるのはおかしい。まずは路上駐車をクリアして(＝駐車禁止にして)、そこから生じる問題を論ずべき。

などの意見が出された。

ここで、福室さんから、交通委員会としての以下の具体的な提案(試案)が示された。

- ①原則駐車禁止(1時間以内の停車は可、などの一部例外を検討する)
- ②30kmの速度制限の設定

これは、交通問題を個別に考えるのではなく、ベイタウン全体を『コミュニティゾーン』として捉え、上記2点をパッケージで適用しよう、という考えだ。福室さんからの、「今、ベイタウン内は何kmで走って良いかわかりますか？」との問いに、誰からも答えがなかったが、「速度規制がないので、一般道の上限と同様、60kmです」との回答に、一同思わず「えっ?！」と漏らす場面もあった。

そして、この具体的提案に対し、さらに議論が交わされた。

- ルールを設けても、守れなければ意味がない。大多数の人間が守れるルールを設定すべき。
- 段差(ハンプ)の設置、駐車禁止箇所の明示(色塗り等)、など、ハード的な対策もある。



▲福室さんの説明を聞く参加者

- 必要な場所、特に病院のまわりなどに駐車場がない。街の計画/デザイン自体に問題がないか。

- この街は新しいコンセプトで路上駐車禁止としてこなかったが、現状を見ると今のままのライフスタイル放置は限界。

- 車が本当に必要なのか、考え直す必要はないか。車がなくてもベイタウン内では生活できる。

- 目線を変える必要がある。例えば、大人の目線と子どもの目線では危険度は全く異なる。

- 路上駐車や事故は住民だけが当事者ではない(実際、本誌先月号でお知らせした8番街前の事故は、非居住者どうしとのこと)。住民以外の人のにどう啓蒙していくのかも課題。

- 一部例外や範囲を設けての規制は、極論すれば「殺人/暴力はNG。でも週1回だけ人を殴るのはOK」という議論をしているように見える。まず駐車禁止にすることがスタートラインで、そこから問題があったら修正していくべきではないか。

- 提言の実現プロセスはどうなるのか？(これに対しては、企業庁との連絡会等で申し入れているが、企業庁側からは「住民の意見をまとめて欲しい」と言われているとの回答)

- 自治会連合会だけで住民の意見を集約するのは困難。住民投票などの方法もあるのでは？

等々、とても全ては紹介できないが、白熱した議論が飛び交うこととなった。

今回は時間の都合でとても「結論」が出るようなところまでは行かなかったが、村岡さんからの「先ずは問題共有はできたかな、と思います。今後は、各街区からの声や、街づくり研究会など、多面的なチャンネルで議論していきたい。1月開催予定の第2回以降も、皆で現場を見る、実験をする、街のそもそものランドデザインを聞く、などの活動を予定しています。引き続き、皆さんの参加をお待ちしています」との挨拶でしめくくられた。【板東】



▲皆で真剣に作業

MAKUHARI Bay Town CORE

公民館から TEL.295-5100

新年あけましておめでとうございます。
昨年は地域の皆様大変お世話になり、ありが
うございました。おかげさまでつつがなく
新年を迎えることができましたことを心よ

り感謝いたしております。

日頃、皆様の生涯学習への情熱と生き生きとしたお姿に接し、ささや
かながらお役に立ちたいと思い努めて参りましたが、まだまだ力不足
でございました。ご迷惑をおかけ致しましたことも多々あったことと
思われます。

今年は未年です。春風の如く人には接し、秋風の如く自分を律して参
りたいと存じます。ご指導の程宜しくお願い申し上げます。

打瀬公民館長 吉岡順子

これからの公民館主催事業予定

1月5日から受付をします。直接または電話でお申込ください。ご
応募お待ちしております。

着付け入門（女性 / 定員 16 人・抽選）

1/22～3/12（2/19を除いた毎週水曜日・全7回）
午前9時半～11時半
教材費500円

楽しい絵手紙（成人 / 定員 20 人・抽選）

1/28～3/25（2/4・11、3/4を除く毎週火曜日・全6回）
午後1時半～3時半
教材費120円

知って安心、健康講座「花粉症から見たアレルギー」 （定員 50 人・先着）

1/18（土） 午後2時半～

美浜区女性講座「しなやかに生きる女性たち」 （女性 / 定員 30 人・抽選）

■ 1/30～3/6（毎週木曜日）午後1時半～3時半

1/30「自分のからだに向き合うこと」女性医師

2/6「人形劇を通して表現すること」劇団「貝の火」代表

2/13「住みやすさとは」一級建築士

2/20「母、式田和子の生き方」エッセイスト

2/27「自分色は自分を表現する色」カラーリスト

3/6「楽に生きてみませんか」生涯学習相談員

2月には「ビーズで作るコサージュ」「親業」のお知らせをします。

図書館から TEL.272-4646

新年明けましておめでとうございます。おかげさまで、4月の開館
以来多くの方にご利用いただき、順調に貸出冊数も伸びております。
特に土曜・日曜日などはカウンターでお待たせすることもあり、ご
迷惑をおかけしているかと存じます。本年も、地域の皆様のご理解
とご協力をたまわり、円滑な図書館運営に努力していく所存です。
どうぞよろしくお願い申し上げます。

★臨時休館のお知らせ

下記の日程で所蔵資料の在庫確認等のための臨時休館をさせて
いただきます。なお、休館中の返却はご遠慮ください。

平成15年2月18日（火）～2月27日（木）

※美浜図書館、花見川図書館、緑図書館、あすみが丘
分館、土気図書室ならびに幕張西、幸町、磯辺、幕張、
検見川、さつきが丘、長作、朝日ヶ丘、誉田、越智の
各公民館図書室も休館（室）しますのでご注意ください。

コアのピアノ、住民に所有権移転。 さらなる寄金にご協力を！

ベイトウン住民による募金活動を行っ
てきたイタリア製のフルコンサートピアノ
「ファッティオリ F278」の所有権が、昨年 12
月 2 日付けで、ピアノ販売会社から住民側
に移転しました。

住民側のとりまとめ役である「幕張ベイト
ウン自治会連合会コミュニティコア研究会」
が 11 月下旬、購入代金の頭金を支払ったこ
とに伴う措置です。これで昨春以来、コア
に置かれてきた「ファッティオリ」は名実と
もに、“ベイトウン住民の至宝”として活用
されることになりました。

「ファッティオリ」導入までの経緯は、ご存
知の通り、難航をきわめました。「音楽性の
高いホールにアップライトピアノを設置す
る」という行政側の当初のミスマッチ構想
は、多くの住民や建築関係者から批判されま
した。しかし、ピアノ購入予算には限度があ
ります。そこで推進されたのが、チャリティ
コンサートを通じてピアノ購入資金を調達
しようという試みでした。

幕張新都心のホテル、高校、大学を会場に
スタートしたチャリティ事業は行政側を動
かし、千葉市は破格の 230 万円を予算計
上。そして住民側は不足分約 400 万円を
調達するため、コア開館後もチャリティコ
ンサート開催などの努力を重ねてきました。
コアのアトリウムに置かれた募金箱には、子
どもたちの 1 円玉寄金を含む浄財が寄せら
れました。松戸市の土屋文化振興財団から

は活動助成金をいただきました。皆さんの
ご協力に改めてお礼を申し上げます。

住民側にピアノ所有権が移ったとはいえ、
残金は 250 万円ほど不足しています。ピ
アノ代金は今年度内に全額を支払う契約のた
め、借入金の導入も検討しています。マ
ラソンレースで言えば、まだ「折り返し地点を
過ぎた」という所かも知れません。最後の苦
難の坂が待ちかまえています。ピアノはチャ
リティの趣旨に添い、最終的には市側に寄
贈する方針です。

今後とも皆さんの絶大なご支援をお願い
する次第です。

【コミュニティコア研究会 下川】

ベイトウン・キッズ・プロジェクト'02 「サウンド・オブ・ミュージック」



本誌 9、12 月号で紹介したコンサート「サ
ウンド・オブ・ミュージック」が、12 月 15
日コア音楽ホールで上演されました。

当日は子ども約 130 人、大人約 30 人、
協力 6 団体とスタッフが参加。ホールはも

ちろん、受付、ミキサー室、控え室も熱気であ
ふれ、「コンサートを成功させよう」とい
う気迫が伝わってきました。参加者は、前
日のリハーサルも丁寧にこなし、当日も「最
初は緊張したけれども、歌っている時は緊張
せずにのびのびと歌えました」と、エーデ
ルワイスを歌った寺谷さんと嶋田さんの感
想にあらわれているように、皆ののびのびと
した歌声、子どもらしさあふれる表情で歌っ
たり、踊ったり。衣装も、歌や踊りに合わ
せて、グループ内の担当者がデザインした
ものを、お母さんが作ったりと、まさに“み
んなで作り上げたコンサート”でした。「一
人ぼっちの山羊飼」「スーパーカリフラジ
リスティックエクスペリアリドーシャス」を
踊ったダンススケッチの皆さんも「今年は
ダンス発表会とサウンドオブミュージック
が近い時期にあったので、練習がたいへん
だった。でも、がんばったよ」と、フェイス
ペインティングされたお星様よりも顔を輝
かせていました。全体的にみると、1 曲め
の賛美歌からラスト 15 曲めのエーデルワ
イスまで、「完成された構成で、とても驚いた。
二日とも見たけれど…映画のシーンが浮か
んできて全くあきず、むしろどんどん引き
込まれていき楽しかった。他の小さい子の
面倒を、大きい子がみていたのも印象に残
ってよかった」と 8 番街の長田さんが驚いた
ように、まさに“映画サウンド・オブ・ミ
ュージックの世界”を再現していて、子ども
たちと大人がふれあえる、素晴らしいコンサ
ートでした。

【浜田】

「うたせマリズクラブ」

この街に果たしてバレーボーラーはいるのかという不安を胸に部を立ち上げて一年、口コミで広がり現在部員数は20名を超えました。週2回(火・金)打瀬小で練習をし、千葉市家庭婦人バレーボール連盟に登録して(現在58チーム)いろんな大会にも参加しています。大きな声をかけ合い、夢中でボールを追いかける。うまくなりたい、みんなで勝ちたいという熱い気持ちと、週2回の自分のための時間をこれからも大切にしていきたいと思っています。

【投稿：伊藤美香】

- 初心者から社会人バレー経験者まで部員がバラエティにとんでいること。
- 練習の出席率が一番の自慢です。ママさんは実はそれが一番難しいのです。
- 千葉市屈指の部員数と若さ。ちなみに平均年齢は37.7歳です(ベイタウンの平均年齢もたしかそのくらいだったような・・・)。



シニアまでやるよ

ベイタウン打瀬地区少年野球メンバー募集

野球をやりたい、あるいはやったことは無いけれども興味があるそんな子供達を募集しています。同時に、一からですが一緒に参加して頂ける大人の方も募っています。経験不問です。楽しく野球を、そんなチームをみんなで作りませんか。大勢の参加待っています。

連絡先：岡本 電話090(4537)5418 moce@aa.e-mansion.com

電話にでられない時、お名前、連絡先をお願いします。こちらからお電話いたします。

海を眺める部屋・都市公団の新規賃貸住宅「ミラマール」第1次入居者募集(1月11日から)

憧れの街幕張ベイタウン。その洗練された街並のセントラルストリート沿い、最も海寄りに位置するシーフロント街区に都市公団の新規賃貸住宅「ミラマール」は平成15年3月誕生します。海と公園を見晴らす開放的な住環境と快適な住宅設備。生活空間にアルファスペースを内包したプランや「離れ」のあるプラン、あるいはストリートフロントにも玄関があるプランといった独創的な空間構成。

進化を遂げた都市リゾートの新たな生活様式が、ここに始まります。

■第1次入居者募集期間 1月11日～26日[現地モデルルーム同時公開]

■募集戸数：1LDK56㎡～4LDK101㎡ 全24タイプ 113戸

■月額家賃：93,500円～213,800円

■礼金・更新料・保証人不要

★お問合せは現地案内所
[営業日時 1月11日～
26日・10時～17時]
Tel:043-296-1555

★詳しい情報は <http://www.udc.go.jp/miramar> を
ご覧下さい。



平成14年10月撮影



都市公団

賃貸住宅のお問い合わせは
総合募集センター津田沼案内所
TEL：047-478-3711
公団住宅の駐車場の問い合わせは
日本総合住生活(株)千葉支店

■去年はベイタウンのサークルガイドの編集作業が進まず、また1ヶ月に1回のグリーン・サムの街路樹観察が続かず、やり残したことの多い1年でした。いっぽうで、うたスポの地域住民参加種目やコアのコーヒーコーナーを手伝ったり、ニュースの活動のほかにも少し世界が広がりました。

地域の活動は様々な人が集まって、それぞれの違いを認め合い、出せる力を出し合っってひとつのことを成し遂げる喜びを共有することだと感じます。ただ、自分のできることの域を少し超えて、「大変さ」を引き受けると、さらに見えてくるものがある…今年もその面白さにはまりそうな予感です。

佐藤則子(＃3-310/T&F211-0090)

■街がクリスマスに浮かれている時期に会社の後輩の父親が癌で他界された。取り乱している彼女を見ながら7年前に父親を亡くし苦しんでいた自分を思い出した。

まだまだ若いとは言え、死ぬ瞬間まで尊厳を守りたいと願った。そして悲しみとは時間が解決してくれることを知った。

金一剛(＃3-220/T&F211-0388/ikim@cc.e-mansion.com)

■区役所の脇に新しく、ホールと保健福祉センターとの複合施設ができます。設計者として選ばれたのは、打瀬小を手がけた小嶋一浩さんが代表を務める事務所と市内の事務所とのグループ。「複合」を生かして、コンサートの託児サービスをセンターで活動する福祉系団体が提供する、といった異分野の融合を図る提案もしています。小嶋さんと言えば、ホールを備えた複合施設という点で同じ「コア」の設計もやりたがっていました。ベイタウンで果たせなかった思いをどんな形で実現していくのか、楽しみです。

茂木俊輔(＃7-305/T&F211-1066/m38032@pp.ij4u.or.jp)

■東京都国立市で「高層マンションと景観」をめぐる訴訟の判決があり、テレビのニュースを見て驚きました。自分が中学生の頃に、通った道、風景がそのまま残っていたのです。「今、このマンションにお住まいの方はたいへんだろうな～」と思いながらも、“街の景観を守っていこう”と頑張ってきた方たちのおかげで、昔の通学路がそのまま残っていたことに、ちょっと…いや、かなり感動したという、最近の出来事でした。

浜田貴代子(公園東 atmark@pop01.odn.ne.jp)

■交通委員会の提案のメリット/デメリットを考えてみた。メリットは、走りやすくなる、歩きやすくなる、一時的な人や荷物の積み下ろしが楽になる(今は、停める隙間がない!)、事故が減る(これは希望的観測)、管理組合の収入が増える(ひいては、立体駐車場の長期修繕計画が楽になる)、バスの遅延が減る、等々。デメリットは…と考えてみたが、何かあるのかなあ?

板東司(＃1-210/T&F211-0289/tbando@dp.u-netsurf.ne.jp)

■最近になって「ベイタウン・ジュニアタイムズ」の子どもたちがベイタウンニュースの折り込みと配布を手伝ってくれています。ジュニアタイムズは子どもたちが自主発行する新聞です。財源がないので、配布をすることで用紙代その他の費用をベイタウンニュースからもらうという図式になっているのですが、子どもたちには自分の住んでいる住戸以外の番街のエントランスでポスティングをすることが楽しいらしく、いやがるどころかむしろ喜んでやってくれます。ベイタウンに多い姓(苗字)は何か、変わった苗字はなにかといろいろ楽しみを見つけては楽しんでいるようです。大人にとっては戸数の多い番街の折り込みと配布は大変な作業ですが、子どもたちは数人がかりでアッという間に終わらせてしまいます。2003年最初のベイタウンニュース。あなたの家にお届けしたのはジュニアタイムズの子どもかもしれません。

松村守康(＃10-612/T&F211-6853/mmatz@m2.pbc.ne.jp)

打瀬小／海浜打瀬小「手づくりみらい教室」

昨年の11月になるが、千葉県下の伝統技能をもつ職人さんが千葉市内の小学6年生に技術指導を行う講座、「手づくりみらい教室」が開かれた。この講座は伝統技能の継承を目指す「千葉県職業能力開発協会」が主催したものだ。初年度の今年は幕張西、打瀬、海浜打瀬の3小学校で行われた。伝統技能と打瀬っ子の組み合わせに興味を惹かれ、11/15に行われた海浜打瀬小学校の講座を取材した。

【松村】

この日海浜打瀬小学校を訪れたのは、協会より派遣された28人。みなさん、普段は協会に所属して技能の指導を行うなど、高い技術をもつ本物の職人さんだ。用意されたメニューは「コンテナガーデン」「石膏細工」「円形ミニ畳」「書道の掛け軸」「生け花のアレンジ」「銅版レリーフ」「本立て」の9種類。参加児童数を見ると、講座によってかなりのバラつきがあったが、これは学校側で事前に子どもたちの希望を取り、全員希望通りの講座で学べるようにした結果という。人気が高かったのは「本立て」の26人。次いで「銅版レリーフ」の20人といったところだが、中には児童2人に先生2人というまさにマンツーマンの講座もあった。もっとも、人気講座を選んだ理由を子どもたちに聞いたところ、「本立てが欲しかったから」「自分の部屋にレリーフを飾りたかった」と作品の実用性で選んだ子が圧倒的で、大人が考えるほど深い理由はない。

どれも見たいところだが、家庭科室で行わ

れていた「銅版レリーフ」を取材させてもらった。薄い銅版にあらかじめ描いた絵や文字を、細い釘のような工具で打ち出す技術だ。ブリキ板に釘で名字を打ち出し、表札を作る授業を小中学校で受けた経験のある方ならだいたいの感じがわかるだろう。もっともこの講座ではブリキより遙かに薄く柔らかい銅版を加工するので、相当細かい神経を要求される。

面白いのは銅版に描く素材として男子は文字が多く、女子はほとんどが絵を選んでいることだ。文字としては「根性」「努力」、中には「合格」というのもあった。「受験生かい？」と聞くとニヤリと笑って「うん」。女子の絵はかわいいファンシー系のものが多く、女の子らしさを感じる。下絵描きが終わって、絵の輪郭を工具で打つ作業に入ると、指導する先生が盛んに「隣のを見

るな」と注意する。「他人のを参考にするのは良くないのだろうか」。不思議に思い講師の市川先生に聞いてみた。「隣の子のすすみ具合を見て、自分のペースを乱しては集中できないから」。さすがに匠と言われる人だ。なにげない言葉の中にも経験に裏打ちされた重みがある。隣の芝生ばかりを気にしてきた記者には耳が痛い。子どもたちにも分かって欲しいと思うのだが、相変わらずおしゃべりをしたり、隣の子の「合格」を気にしたりだった。

今回の講座が直接技術の継承につながるかどうかは分からないが、この日目にした一流と言われるひとの考え方や作業のやり方は、子どもたちが大人になったとき、きっといいヒントを与えてくれる。



本立てづくりでカナヅチの使い方を教わる

Who's Who Vol.28

幕張ベイタウン自治会連合会長

11月のある日、打瀬小学校横の緑地で5人の男が議論していた。5人のうち3人は黒い背広姿で、すぐに公務員と分かる。残る二人の方は先の3人に比べると少し年配だがラフな服装でこちらも付近に住む住民ということがすぐに見て取れた。5人が話し合っていたのは、ここ数日ベイタウン内で問題になっている「スーパー防犯灯」5基の設置場所についてだった。背広姿の3人は千葉県警と企業庁から、住民らしき2人はベイタウン自治会連合会の役員。県警側は警察庁からの指示

伊藤正昭さん

で防犯灯を住宅地域内に設置することを主張し、自治会側は防犯の優先度から海浜公園内へも設置することを求めていた。

突然、住民らしき男のひとりが少し語気を荒げて言った、「そういうことなら、この話は白紙に戻してもいいですよ」。この一言で協議の方向は決まった。連合会役員の思わぬ強い態度に県警側も面喰らったのだろう。スーパー防犯灯は海浜公園内に3基、住宅地内に2基設置することを県警から警察庁へ要望することになった。強い言葉で住民案をあくまで主張したのは伊藤正昭さん、幕張ベイタウン自治会連合会の第6代会長だ。後にコア研代表の下川氏は「伊藤さんは男の中の男」と評していた。

自らを長州人という伊藤さんは山口県の出身だ。大学で当時まだ珍しかった政経学部で労働法を学んだ。その後製鋼メーカーに入社し、退職までずっと労働畑を歩む。入社した昭和37年は組合と経営側のボスが秘密裏に交渉を行う「ボス交」と言われる古い労務管理の手法から、新しく民主的な労使関係へ移行する時期にあり、伊藤さんはその新しい時代のリーダーとして

数々の労働争議を乗り切ってきた。故郷の山口県の工場に勤務した40代には、労務課長として休日には会社主催の運動会やハイキングなどイベントの企画を数多くこなしたという。「今から考えると、あれが最も充実した時期だった」というが、心残りはその時期に自分の家族とのふれあう時間を持てなかったことだという。50代に東京本社勤務した頃は総会屋と企業との関係がきびしく問われた時期だった。総務課長として総会を第一線で取り仕切らる中で総会屋と言われる人から脅しを受けることを何度も経験した。修羅場をくぐった強さと信義を重んじる人柄は永い職業人としての人生で培われたものだ。

インタビューを終えるに当たって、ベイタウンで一緒に活動する若い人の印象を聞いた。「僕がつとめていた頃は大変と言っても基本的には右肩上がりの経済環境。働く場所がないという時代ではなかった。今の若い人はその意味ではもっと大変だろう。会社と地域ボランティアを両立させることが難しい時代になっている」。

【松村】

スーパー防犯灯は前述した5カ所への設置に加え、①ベイタウンという街の景観に配慮する、②プライバシーを侵害することのないよう可視範囲を制限する、③今回設置できなかった場所も防犯上の配慮をする、④定期的な防犯懇談会を行う、という4つの条件を付加した要望案が現在千葉県警から警察庁へ出されている。





BAYTOWN BUS

2003. 5周年を迎えました



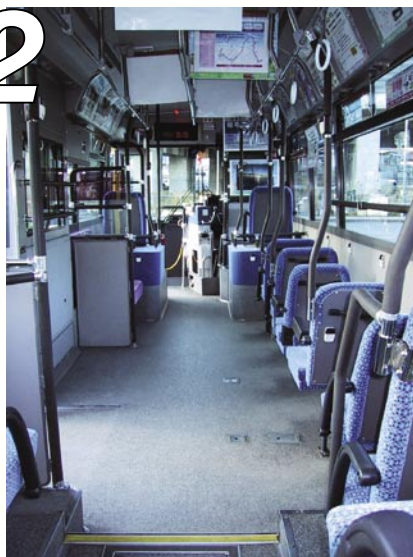
ベイタウンバス 4 つの特徴

1



座った人が、そのまま押せる位置に降車ボタンが配置されています

2



低床部分は日本のバスで最大です。ヨーロッパのバスを参考に、誰でも背の高さに応じてつかめる「スタンション棒」を車内の中心に置きました。

3



ベイタウンの路線では、どこでも歩道からそのまま車いすで乗り降りできます

4



最新の排ガス規制に適合した車両を使っています

バスは景観のひとつ (なぜベイタウンバスは黄色一色に文字ロゴだけのデザインか?)

ベイタウンバスは、デザイナー「佐藤卓」氏の手でデザインされました。ロンドン名物の赤い2階建てバスのようにバスは景観のひとつであり、バスにデザインを施すのではなく、このベイタウンの街並みにどんな色が似合うか。10年、20年たってもベーシックなものは変わらないというコンセプトでデザインされました。

2003年度は、新しい街の開発と並行して、海側に新しい路線の運行を検討しています。



ご意見・ご要望は **平和交通 バス**

〒263-0054 千葉市稲毛区宮野木町577-1
Tel:0120-600-366 Fax:043-256-6211

